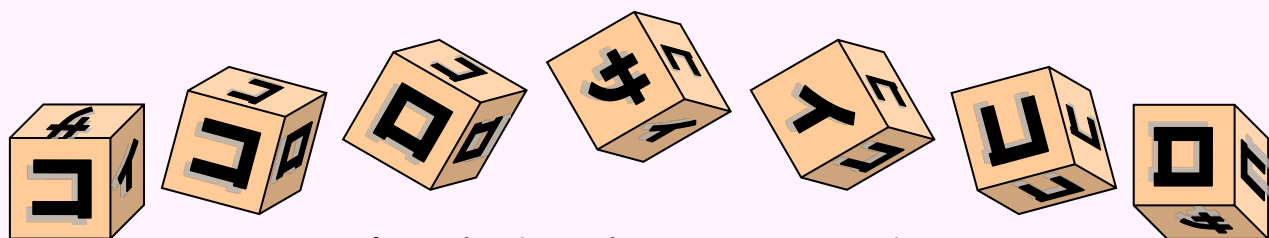


サイコロジーpsychologyとは英語で心理学のこと。ダジャレのようですが、心は本当にサイコロに似ています。
どの目が出るか誰にもわからない不確実さと、上下の数字を足すと7になる規則性とをあわせ持つ。
そんなココロを科学する企画、それがココロサイコロ。



宮城学院女子大学
学芸学部 心理行動科学科
アクティブラーニング発表会

第19回コロサイコロ

終戦後80年に改めて戦争を考える

私たちの学科のモットーは

“心理学は机の上だけでは
学べない” です。

その実践の一つとして、日々の出来事を
心理学的に分析する授業があります。

今年の1年生が半年かけて積み重ねた
アクティブラーニングの成果を発表します！

是非ご覧ください!!!

11月23日(日)

11:00～17:00

AER2階
アトリウム

発表は随時！
無料です！

終戦後80年に改めて戦争を考える

仙台空襲の証言分析と戦時下の心理

1945年7月10日、仙台駅から県庁・市役所あたりまでの約2km四方を焼失し、1,399人が亡くなりました。その仙台空襲について、証言録の詳細な分析で空襲の現状を改めて見つめます。また、『河北新報』『写真週報（政府刊行の写真週刊誌）』から当時の社会の心理を分析します。防空壕や戦時下の食事の展示も予定しています。

戦後80年：平和に対する私たちの意識

戦後80年間、戦争放棄・平和主義を守り続けてきた日本において、私たちは戦争や平和についてどのような意識を持っているのでしょうか？ ①平和教育・平和学習の実態とその効果、②戦争に対する当事者意識、そして③国への愛着の3つの観点から、幅広い年齢層の方を対象にしたアンケート結果を報告します。

戦時下における人の行動を見つめ直す

戦争のような人々の間で摩擦が生じる際に、特徴的な様々な行動の傾向が見られます。過去にもみられていた行動の傾向として、①自分の集団への所属意識、②情報操作、③行動の集積による帰結、④ストレスのかかる場面からの回復について取り上げ、現在でも同様に人の行動の傾向として確認できるかを再考しようと思います。

戦災復興支援の心理学

2025年は戦後80年という節目の年であることにちなみ、今回は①太平洋戦争の空襲被害者への支援、②仙台空襲の資料保全、③戦時下のウクライナへの支援のための募金活動を、それぞれ簡便な実験や調査を交えて行いました。過去から現在のことを知り、そして未来に向けて何ができるかを考えるきっかけとなる知見をご報告します。



愛のある知性を。

宮城学院女子大学



■お問い合わせ

宮城学院女子大学 学芸学部 心理行動科学科

メール：pb-info@mgu.ac.jp

電話：022-277-6491

